

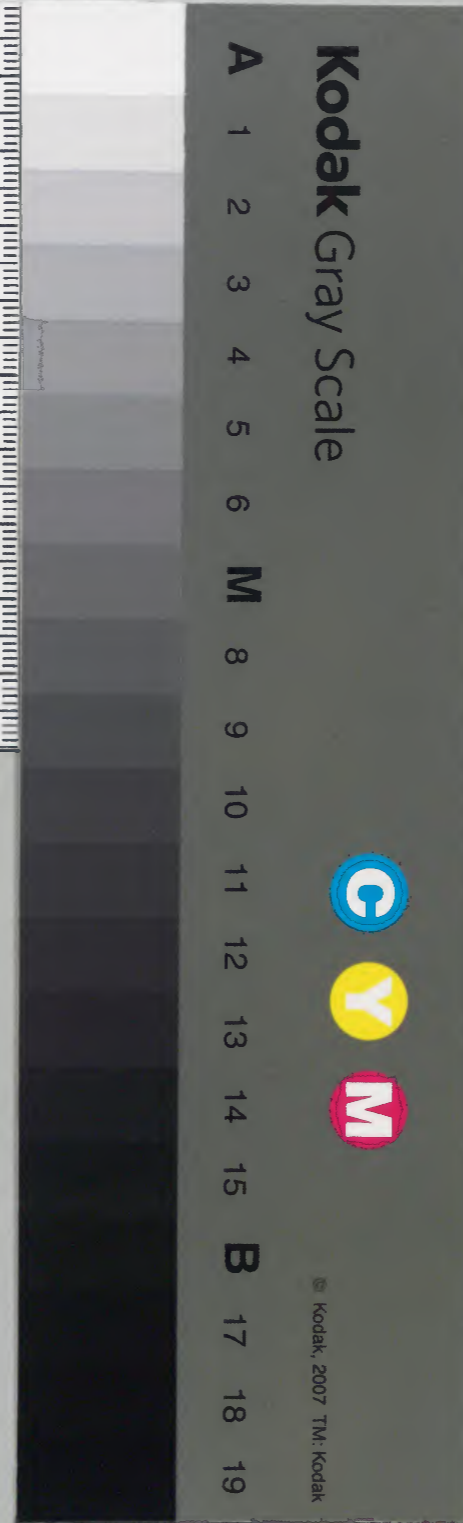
# 續談海

# 十一

				和書門
			八六三	
			二四三	
			五〇	
			冊架函號類	

庫	文	閣	内
五〇函	五〇冊	八六三三號	和書類

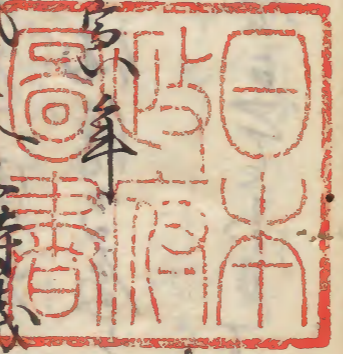
内閣文庫	
番號	和 8633
冊數	50 (11)
函號	150 93



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

明治十年

延享三丙



正月十二日 夜 西北風 交九時 浪

如矢傳所燒本並本町許町海川向下飛火本不

石原色に於火

二月十二日 夜 八時 市各 尾法殿 沙面浦に火

沙原向不強炎上照六時 南風 於火形

二月晦日 南風 夜五時 本換所 門迄亦西丸中火

但博河 橋方去 西原に 出火 浪町 也 不辨 終夜 燒

燒亡 西原 橋 同所 少 光 形 不 以 時 結 同 所

法皇幸月麻新迎らば飛火南風夜所為楊場形多成  
中隊系と焼書付法重天社後  
一二月廿二日香時龜戸天神表つ所家公焚三町打火  
一月廿三日夜五時前地震余程強し家公切り居  
所を

一四月十六日夜申 松平左近將監院在を一回乞下登是  
あり焼くま度物にも多病高年去

一七月十九日香時風雷雨降午也迎所と下落る物申  
山岩川市早等町所全雷火中て一軒悉く焼失  
一系於所時代牧地備後高屋系府乃し向く上京  
府 落書

系於より仕事會立てり也と備後表の  
落書

初めは備後のさうじ飛書の行状を尋ねりて  
控言と既るかき書りてやうの事と人  
又

一 大坂在安水地河内与泉系於 法城門中を喧嘩  
一 大坂在安水地河内与泉系於 法城門中を喧嘩  
一 大坂在安水地河内与泉系於 法城門中を喧嘩

大坂夕切涉場と書後切  
中場へ落死  
長死  
其子  
有付  
七智  
中乃中氏  
波田地能文し物  
今泉在年を  
於本を飛  
山下 澤助



日本書紀 卷之六 崇峻天皇 乙未年 秋 九月

十月十日

右振事人名一覽

遠列員所東振天神神皇女及右邊社領

社人神谷和上吉野村借

赤代法下事

今全人けい

長益

源七

源八

源九

遠列岩剛村吉若

遠列白福村吉若

同日足月所西振事所 所人

天保助以序内代事所

(同日西振事所人)

(同日五振事所人)

(同日奉田郡中倉村西所)

(同日口所西田村百姓)

(同日口所西田村百姓)

(同日口所西田村百姓)

(同日口所西田村百姓)

源十

源十一

源十二

源十三

源十四

源十五

源十六

源十七

源十八





一二九 沛燒 夫舟 舟打 与 与 与 与

有 之

時 恒 三

所 子 行

能 勞 肥 後 馬  
場 深 後 馬

大 清 役

南 善 各 代 秋 山 十 五 里

時 恒 三

所 恒 二 切 元  
之 胃

日 名 代 南 於 主 辰

小 渡 氏 部

松 平 富 永 席

日 名 代 依 務 内 恒

松 山 内 元  
三 枝 宗 口 席

内 田 行

駒 井 義 貞

中 山 小 舟 氏 席

津 尾 市 氏 席

古 倉 氏 席

橋 本 阿 部 氏 席

橋 田 十 舟 氏 席

内 田 氏

大 友 保 江 七 三 年  
全 田 氏 辰

時 恒 二 元

時 恒 三



松平主馬  
細井佐治  
奥津守力  
小幡又十郎  
戸田保十郎  
尾形久吉  
藤原信重  
安藤法重

二九火の序場下は公轉出界形は序陣便物  
右於更幕同伯老中一海一志中列座  
但史清役は自分便書中海一時に表幕中待矣  
十書待子行

時辰三

曲園 神若子

二九火の序場下は公轉出界形は序陣便物  
但史清役は自分便書中海一時に表幕中待矣

西九四月廿

津尾伊三郎

口以里連は在戲中及是し世法仕場下は公轉出  
界形は序陣便物は序陣便物

右於同序同人は海列座待座口不  
但史清役は自分便書中海一時に表幕中待矣

浪文板

水野之右衛門

口以場下は公轉出界形は序陣便物  
右於同序同人は海列座待座口不

浪之扱

小笠原方改役

本宅庄左馬

右内侍 舟左馬

山内目付与氏

浪之扱

右内侍 場右馬 舟左馬 舟右馬 浪之扱  
右内侍 堀左馬 舟左馬 伊藤左馬 舟左馬 浪之扱

山内目付

中村源七郎

山内幸右衛門

大石忠右衛門

中村源七郎

山内幸右衛門

早地左衛門

中村源七郎

山内幸右衛門

村上与左衛門

中村源七郎

山内幸右衛門

河内右衛門

上田三右衛門

村上与左衛門

秋山与左衛門

上田三右衛門

村上与左衛門

浪之扱

小川孫七郎

松村与左衛門

右内侍 浪之扱

浪之扱

浪之扱

久之助左衛門

二丸右衛門 舟左馬 舟右馬 舟左馬 舟右馬  
右内侍 浪之扱 舟左馬 舟右馬 舟左馬 舟右馬

書付振込

大信左十郎

浪之扱

与力左衛門

浪之扱

日向与左衛門

浪之扱

与力左衛門

浪之扱

日向与左衛門

全言是々

内十八日付、  
其人

以便、  
其人

大奥、  
書信方役人

根を扱、

左、  
其人

内、

減、  
言、

多目、

町大、  
名、

根、

町人、  
六、

多目子、

二、

全言是

通、

有、

大、

勤、

了、

深、

布、

借、

宅、

助、

十、

又、

右、  
相、  
備、

山、

松、

井伊備中書

二九右の一人教名を転出防の成達  
所記の成達より中書 上之  
右の成達を院海防を中列成

成

成

伊達大根達  
松平下伝書  
松平因情書  
丹羽君按書  
戸田宗女正  
古伎伊与書  
内海大和書

二九右の一人教名を転出防の成達  
所記の成達より中書の旨 上之

松平丹波書

二九右の一人教名を転出防の成達  
所記の成達より中書の旨 上之

阿部左衛門書  
柳原少平書  
古伎左門書  
松平左衛門書  
板倉周防書

二九右の一人教名を転出防の成達

所記の成達より中書の旨 上之

松平左衛門書  
松平左衛門書  
松平左衛門書

佐行因情也  
布多男徳也

二九ちりし序子明る処  
お他も造 涉陸此段  
右に涉る書院源和  
他を言及と 修海を中判度

東水あを

所々二の九北東水の清後  
の志より思焼凡上の丸吹  
かききききききききき  
声子出入者清らうき  
上武物たた花物に速  
にあらたす九其之休の  
かすあんえんのそま  
のりよたけと多門は  
たり 東水とんぞ  
にあらたす九其之休の  
かすあんえんのそま  
のりよたけと多門は  
たり 東水とんぞ

一 四月廿六夜中遊も  
上石後焼 右中書院  
とを所をりそり  
一 六月廿七夜中  
まめやも出火か  
○ せめあがご  
あは 正月元  
初焼火の  
右後二九  
りしとる  
りしとる

あは 正月元  
初焼火の  
右後二九  
りしとる  
りしとる









下三

白浪屋凡三ノ門外場下役  
切後井海ハ千ノ下長仕也ト云

奥ノ山ニ年

大武 劫次

三傳 吉右衛門

中村 每内

山田 信右衛門

吉方麻下

須月

目人

旅人

幸揚子右衛門

山傳 兵衛

大少性

江本 又八

日 清右衛門

足傳 少左衛門

大次 右内

切後ノ場下ト云  
附所ト云

小服方ニ方載持也

大内 仲藏

吉方麻下

旅人

吉田 源次郎

刀持服方持

麻下

女侍人

甲少性

平傳 軍下

吉方麻下

以上

右内 藤書

三五殿中新血色

二百里外右臣心

ト云  
ト云  
ト云



種々私見を以て種々切付申上り候後、  
申上候人、裁付、万難事之儀と存候申上り、  
使て誓切者限、種々根柢も持、  
持生、申上り、全乱、  
至難候、同小社、  
申上

八月十日

古倉長三郎 植田十房兼  
夏浪形之序 八木十三郎  
神尾伊三郎 中嶋彦右衛門  
石河 古体書  
水地 附了書  
申上り、  
神尾市右衛門  
橋本阿波書  
杉本集人  
加茂 彦右衛門  
田代 宗仙

外科

右、若丸 細川陣中、  
別業、  
八月

八月

底之容辨

- 一 首筋際 横七寸半
- 一 左右、肩七寸半
- 一 右、肩、五寸半
- 一 背甲、右、根柢、  
左、根柢、  
五寸半
- 一 一、所
- 一 二、所
- 一 三、所













一 采むけハ一切をぬ大佛の法紙  
一 科記代り多き事有るを守神  
一 上下の事くぬたのいあり  
来る二月物知る令展信老之

此方の事方かハ一切のトさふーハ

一 二月廿六日 沙幸方逝去 南の方杯 沙幸方杯也

一 三月廿一日 申ノ上野ハ 梅谷及 沙幸方杯也  
沙知推也 至心院殿与早又 沙幸方杯也

一 二月二十日 終ハ南大風夜中 不止 夜ハ時谷中湯痛  
奪り 出火 布堂 初ハ後 燒 矢 夫 子 漢 終 寺  
不後燒也 但みゑり後

一 大河所杯 去年申ハ 沙申風ハ沙容知ハ知修  
沙使就 南来ハ来度ハ沙容知ハ知修

一 二月廿二日 朝鮮人 仁戸 兵 旅 宿 降 卒 布 知 有 也

三使姓名

正使 通政大夫 吏曹参議 知制衣 教 洪啓禧 字 純甫

癸未生号 澹富 本南陽 四十六

副使 通訓大夫 弘文館典翰 南泰老 日 字 洛叟 四十九

庚辰生号 行哀 本宜寧

從事 官通訓大夫 弘文館校理 曾命采 字 疇卿

己卯生号 蘭谷 本昌寧 五十一

朝鮮人日割

六月廿九日 曲馬下見 六月終

六月二日 簡法中申方 月三日 曲馬上流

善事 善虎

乞城



以是方見之乃人多有之宅下ハ其死宅者之妻物  
一奉り子の親も此七片あり 親も在 場り ぬく ぬきあり

九月廿七日 法住寺 乞

行姫若杯 比島所氏

切後

水神寺 寺あり

日人伴

日 中寺あり

日人二男と侍り

中後寺あり 寺あり 寺あり

日 中寺あり

日 中寺あり 寺あり

日 中寺あり

日人 中寺あり

死罪

海田源方あり

中寺法住寺 内助あり

中服 中寺あり 寺あり

寺あり

日人 中寺あり

中村文八

中後寺 中寺あり

中寺あり

中細又あり

陽徳寺 日人 中寺あり

中寺あり

中寺あり

中寺あり

中寺あり

中寺あり

志河中富坂所 庄名

死罪

志河十條新 庄名

主傳

志河押 庄名

急為他

志河社 庄名

奴

捕令

志河之 庄名

志河捕

浪人

平山平馬

秋山庄名

志河庄名

少股平庄名

平子

日人

つせ

日人

志河庄名

日

志河十條庄名

日

寺西庄名

捕令

日

志河庄名

日人

日

水地七少庄名

志河庄名

日

牛也 志河庄名

志河庄名

志河中富坂所 庄名



日人志死但次

中村孝方為  
妙法原在

右月以の旨子連志死下箇中連以味之仕人如之  
手長彼是日役乃内後の内身奉為長身如奇  
秀不不多一西の依一涉役 伊免長和以  
後付考之

朝山善次

乃根在善次

書者後他三川内知物志死下役奉為長身乃方他  
朝山善次朝山金子乃老たぬ所人十細又古為伴  
中江原 与中志水地七片奉為 二男一也仍り飯  
出子住是之御舟以味之是仕金お海平長御侍

存之志しり知得し以味も不是 其かこゝろ一是之欣  
不仍所奉之付依し是乃和也 仍付志也

右十出位法寺及 於世色 板倉休海寺及 板田加多寺及  
出別無位法寺及 於世色

一十月朝、所寺の大意結あき今日は為下寺社等以  
以終付志乃石上取下

一十月十日、今日琉球人乞 城於大座間以礼  
其海

同十八日

金機

奉奏 樂曲之名状才一奉 樂

万年春

頃内

津波親雲子

笛

伊江里子

笛

徳虎里子

鼓

十洞

知念里子

捕板

漆川里子

二月 才二奏樂

加更的

頃内

津波親雲子

笛

徳虎里子

顔振

大成里子

才三

樂法朝

頃内

津波親雲子

笛

徳虎里子

顔振

大成里子

才四 唱曲

白繁天の曲

吉色結

洞箫

伊江里子

琵琶

奥系里子

才五

乾通泰法曲

三法

知念里子

以上

琵琶

伊江里子

笛

伊江里子

鼓

十洞

知念里子

捕板

漆川里子

三法

知念里子

津琴

漆川里子

山越走なり 三月廿六日 逸見出羽守 初名八ノ物

月以味役 十月廿六日 塚江亮四郎

右勤方音重守 庄役は 庄敷少重守 庄入  
過寒於解人 本於庄判申しあり

あそ 二に徳とのあねしやれ

八のよて居あしよりち子將よりつて荒四とれに  
。逸見堀に酒井の河某の侍へ防ひてある

我々ことかへりあふ酒井まで雅楽のやも月一鏡の祿

今年

於解人 本於庄を申方勤上物是

手紙あもさよふ

唐紙百枚

雅生紙と写

西盤三枚

下極の毛のあく

左凡の皮のあ

酒井雅樂次

堀田吉権守

西尾隠岐守

法信下とよりんあう

を同く二本

古筆のきんちやく

唐紙とさう

福島のあわ

松田中一

又よりんあう

唐紙俵百枚

氣や川までんあひ

人あし十あ

ぼのあひ

唐紙とさう

あもあて丸巻にまらる

胡律一打

足らけよりんあひ

我眼周一糸

尺のよんあひ

枝さんご下あ

本多仙春守

松平左と右監

本多伊藤守

板倉依房守

堀田加賀守

加納左江守

戸田清隆守

三浦志摩守

堀武部如備









切後

穿死在信

重進放

江戶排

在信

行由出能

在信

浮舟の

物色金を

比知定

切野春

吉史の書

於来力

田安島

平川

金史

長夏

平川新

谷原

金史

志

仙入

高

持今

和日書

向

淨徳

山

死

進放

神田

山

口

持今

山

右記... 神... 後...





依し是迄侍女終行也

大書是後侍女也

奥川求馬妻

女月

六

于方奥川新立命安娘求馬妻の年表ありは  
幼く婚相整ふ中求馬妻の如く去去の仕侍の  
中奥川に侍客通利求馬を攝し始終一不離  
居存何方へ娘を遣はし給ふ所 去去十  
月去去の夜仕下女に去去の御出奔定案  
葉内、去去の確氷清國所にも去去の法度書  
山御侍一任に下女に御教を授け給ふ事  
有御侍死罪に 仕侍去去  
右於御定所有御侍候方因痛き所を以て攝儀候  
此月付去去長守 去去の御

追加

奥川求馬妻

山中定右馬

月人下女

いさ

死罪

二橋通守

二橋庄之守

相模町表

九右衛門

久大恒町中村吉仙仕

市八

日

日

是迄

研末

怪+退放

之料+費+元

日+之+費+元

接+前

東鴨原町

以+京+法

位+上+地+林+村+名

馬+物

日

包+氏

又+右+部  
仲+右+部

日

名+氏

久+右+部  
友+右+部  
長+右+部  
小+右+部  
上+右+部

同+右+部+村+名

中+右+部

内+右+部+名+氏

名+氏

急+度+比+押+等+醫+原+林+名+氏

中

在+右+部+勢+因+情+与+馬+場+後+伎+与+古+部+名+氏+所+三+人+合  
因+情+与+海+右+部+接+便+名+氏+所+中+海+

一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名

一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名  
一+月+十+日+右+部+初+志+河+筋+出+水+等+所+右+部+橋+橋+名



右橋し 水舟流矢 兼破換多し 往來之  
一あり 道修く 飯橋小 ありし ありし

苗秋の比 伊奈末末 ありし ありし ありし  
概谷村 百姓 ありし ありし ありし

